



一九九七年九月一日、何の予備知識もなく、また事前に調べることもなく中国に渡りました。言葉が通じない、聞いても分からない。そんな不安の中で九月は過ぎていったと思います。特に長江より南では方言もきつ、数カ月経っても、聞き取るのは難しかったです。でも、そんな中で、これまでの人生で出会った誰よりも、育ってきた環境の違う人々と触れ合うことができたことは、今回の中国留学での一番の収穫だったと思います。それは中国人であり、その他の国の人もあり、また、企業から派遣されてきた社会人留学生たちである。大学に入りたてのころは、それでも外の大学生たちとの育ってきた環境、考え方の違いに戸惑いを覚えていたが、それ以上に違う面を見せられました。それは日本人が持つていない生活の習慣であったり、物事の考え方であったり。たとえば物の価格に定価がないものが多い、あるいは、友人との接し方、

『留学の経験』

国文学科4年 栗野能行

学生の先生に対する態度、とらえ方など。数え上げればきりがありません。しかし、外の国の人との付き合いのほうが、日本人同士よりも楽だった面もあり、不思議な感じがします。もともとそこによその国からのお客さんという気持ちがあるのかないのかまでは分かりませんが、でもいったん友達になると、彼らはとても親身だったような気がします。また、それ以外にも、社会人の方の仕事に対する考え方や、留学の目的を聞いて、まだまだ自分にはたくさん甘えている部分があることを痛感しました。生活に必要な通貨の両替を機に、それまであまり興味のなかった、世界経済の流れのようなもの、社会人の方から教わることで、おおよそ、大学にいたままだったら、知ることなかったようなことも知ることができました。これは大変幸運なことだと思います。

中

中国語の勉強のほうですが、これは、生活そのものが勉強でした。授業、買い物、テレビを見たり、旅行をしたり、それらはみんな中国語を使いますから、中国語に関して言えば、何をしても、無駄なことはなかったように思います。それに比べ今は、ほとんど中国語に触れる機会もなく、少し残念な気がします。特に僕の場合、中国語に触れていた期間が、ほとんど留学の間だけというふうに、とても短いので、これからどれだけ忘れてしまうのか、いささか不安です。これから時間を作って、勉強していこうと思っています。

最

後に、この中国留学は僕にとっては、普通に大学を卒業していは経験することができないことではないでした。こんな機会を与えてくださった大学の方々と、両親には感謝の気持ちでいっぱいです。

了

都留文科大学では中国湖南師範大学と一年間の交換留学を行っています。今年も、両校から2名づつ、計4名の学生が日本・中国に滞在しながら、充実した学生生活を送りました。たくさんの方の事を吸収し、一回りも二回りも大きくなったであろう4人の留学を終えての感想を紹介します。



中国の友達との交流



荒木久美さん(写真:左)と栗野能行さん(同:右)

近

くって遠い中国。中国について知っていることを挙げようとしても、一年前の私にはほとんど思い浮かばなかった。しかし、湖南省長沙で一年間様々なことを学んだ今、中国が身近に感じられるようになった。このことは、中国語の上達や中国文化に触れることよりも大切だと思うし、一番の成果だと考えている。中国にいたとき、「日本」という単語を耳にする度懐かしさを感じてニュースに集中していたのと同じように、帰国した今、「中国」と聞くと親近感がわいてくる。留学する前とは全く違った見方ができるようになった。中国に対しても、日本に対しても。物事を多面的に捉えられるようになったと思う。

私

は日本人なので、どうしても日本人の考え方と予備知識で中国を理解しようとしてしまう。これはあまりよくない。それぞれの国にはそれぞれの文化があるのだから、日本を土台にして外の国をみることはよくないと思う。例えば、外国で何か不満を感じたときに、日本だ

『中国留学を終えて』 英文学科4年 荒木久美

電と断水が同時にやってきた時こうなった。あまりにもショックで何もする気が起こらず、寝ながら元に戻るのを待っていた。その時、日本だったらこんなこと起こらないのに、と、ため息が止まらなくなった。このように考えていたのでは理解が深まるどころか、ますます気が滅入ってしまふ。だが、中国風に考え方を考えればそんなに大したことではない。私の場合もちろんと前もって準備していれば平気だったのに、どう対処すればいいのかまだ分からなかったのだらう。予告なしに停電や断水がくることが分かっていたら、ペットボトルに水を常備し、ろうそくやライトも用意した。日本での常識や概念を取り払い、その上で中国生活ができればスムーズに馴染めると思う。日本だったら...と考えるのではなく、これは中国式なのね...と受け入れることが必要だと考える。そして自分なりに工夫できれば更によいと思う。

留

学して間もないころと体調を崩したときにホームシックになりかけたのだが、そういうときこそ中国のマイナス点をさがり目について、考え方を切り替えることができなかった。自分の中の受け入れ体制がまだ不完全だったのである。しかし前述のように考えるよう努力してからは気持ちが軽くなり、学習面でも生活面でもいい影響があったと思う。苦手意識があったリスニングも少しずつ上達したし、辛い湖南料理にも慣れた。いろんなことを勉強できたが、まだまだ足りないのが機会があれば是非また訪れたいと思う。異文化に溶け込むことは、難しい反面楽しさもある。広い中国。未知の部分も多い。次はどんな側面に出会えるか、今から楽しみである。